

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療概論		
必修選択	必修	(学則表記)	医療概論		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	医療概論			出版社	医歯薬出版会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成を目的とする。		
到達目標	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成している。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○
実務内容	自身の治療院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医学史序説、医学史の意義と特質	医療概論、医学史の方法の可能性
2	西洋の医学と医療の歴史	古代の医学、中世の医学
3	西洋の医学と医療の歴史	ルネサンスの医学、17世紀の医学-近代医学の萌芽
4	西洋の医学と医療の歴史	18世紀の医学、19世紀以降の医学
5	東洋の医学と医療の歴史	古代インドの医学
6	東洋の医学と医療の歴史	中国の医学

7	日本の医学と医療の歴史	古代以前、古代の医学
8	日本の医学と医療の歴史	中世の医学、近世の医学
9	日本の医学と医療の歴史	近代の医学
10	現代医療の課題	西欧近代医学
11	現代医療の課題	東洋医学
12	現代の医療制度	医療従事者と医療施設、医療と医療経済
13	現代の医療制度	医療保険のしくみ
14	現代の医療制度	公的医療負担、介護サービス行政
15	医療倫理	医療倫理、施術者としての倫理
16	試験後まとめ	前期末試験解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会保障制度及び職業倫理		
必修選択	必修	(学則表記)	社会保障制度及び職業倫理		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	社会あはき学 第2版			出版社	医道の日本社

科目の基礎情報②

授業のねらい	現行の社会保障制度の概要を理解する。はり師、きゅう師としての倫理を身に付ける。		
到達目標	現行の社会保障制度の概要を説明できる。はり師、きゅう師としての必要な倫理を説明できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○
実務内容	自身の治療院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
2	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
3	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
4	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
5	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
6	社会保障制度について	療養費払い制度の概略

7	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
8	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
9	職業倫理について	医療従事者の倫理について
10	職業倫理について	医療従事者の倫理について
11	職業倫理について	医療従事者の倫理について
12	職業倫理について	医療従事者の倫理について
13	職業倫理について	医療従事者の倫理について
14	職業倫理について	医療従事者の倫理について
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	病態生理学		
必修選択	必修	(学則表記)	病態生理学		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病の成り立ちを理解し、臨床現場で求められる鑑別に関する知識を学ぶ。		
到達目標	疾病の成り立ちを説明できる。 疾患の鑑別できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、病理学概論、解剖学、生理学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○
実務内容	自身の治療院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病態生理学を学ぶための基礎	筋骨格系の働き
2	病態生理学を学ぶための基礎	筋骨格系のしくみと破綻
3	病態生理学を学ぶための基礎	神経系の働き
4	病態生理学を学ぶための基礎	神経系のしくみと破綻
5	病態生理学を学ぶための基礎	内臓の働き
6	病態生理学を学ぶための基礎	内臓のしくみと破綻

7	体液調節のしくみとその異常	体液・電解質の正常性を保つしくみと破綻
8	血液の働きとその異常	血液の正常性を保つしくみと破綻
9	循環のしくみとその異常	循環器の正常性を保つしくみと破綻
10	呼吸のしくみとその異常	呼吸器の正常性を保つしくみと破綻
11	消化・吸収のしくみとその異常	消化管の機能の正常性を保つしくみと破綻、
12	腎・泌尿器のはたらきとその異常	腎・泌尿器の機能の正常性を保つしくみと破綻
13	内分泌・代謝のしくみとその異常	内分泌・代謝の機能の正常性を保つしくみと破綻
14	生殖のしくみとその異常	生殖の正常性を確保するしくみと破綻
15	脳、神経、筋の働きとその異常	脳・神経機能の正常を保つしくみと破綻
16	期末試験の解答と解説	期末試験の解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	東洋医学臨床論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	東洋医学臨床論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉			出版社	医道の日本社

科目の基礎情報②

授業のねらい	患者の愁訴に応じた鑑別法や治療法を修得する。		
到達目標	疾患に対し、西洋医学的に適応・不適応を判断できるようになる。 疾患に対し、現代的、中医学的に施術の選択ができるようになる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	東洋医学臨床論Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山賀 真知子	実務経験	○
実務内容	学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	2年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉・鼻汁の復習
2	2年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉・鼻汁の復習
3	2年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉・鼻汁の復習 脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
4	2年次の復習	脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
5	2年次の復習	脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
6	2年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習

7	2年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習
8	2年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習 肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
9	2年次の復習	肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
10	2年次の復習	肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
11	2年次の復習	運動麻痺・高血圧症・低血圧症・食欲不振・肥満・発熱の復習
12	2年次の復習	運動麻痺・高血圧症・低血圧症・食欲不振・肥満・発熱の復習 のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹・小児の疾患の復習
13	2年次の復習	のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹・小児の疾患の復習
14	2年次の復習	スポーツ外傷・障害、老年・高齢者の復習
15	2年次の復習	スポーツ外傷・障害、老年・高齢者の復習
16	前期末前まとめ、前期末試験のフィードバック	前期末試験の解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会はりきゅう学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	社会はりきゅう学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	社会あはき学 第2版		出版社	医道の日本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代社会における鍼灸師の役割を理解し、社会のニーズに合った鍼灸治療を提供できるようになる。 施術所開設に必要な知識や、施術所の経営に関する知識を習得する。		
到達目標	小児・女性・高齢者に対する疾病に対応できる。 施術を受ける側から身近な存在になれる。 地域の医療、福祉と連携がとれる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	社会はりきゅう学Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	入口 竜士	実務経験	○
実務内容	学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	現代社会における鍼灸師の役割	高齢社会における鍼灸師の役割
2	現代社会における鍼灸師の役割	高齢社会における鍼灸師の役割
3	現代社会における鍼灸師の役割	少子化社会における鍼灸師の役割
4	現代社会における鍼灸師の役割	少子化社会における鍼灸師の役割
5	現代社会における鍼灸師の役割	女性の健康管理における鍼灸師の役割
6	現代社会における鍼灸師の役割	女性の健康管理における鍼灸師の役割

7	現代社会における鍼灸師の役割	ストレス社会における鍼灸師の役割
8	現代社会における鍼灸師の役割	ストレス社会における鍼灸師の役割
9	現代社会における鍼灸師の役割	スポーツ障害に対する鍼灸師に役割
10	現代社会における鍼灸師の役割	スポーツ障害に対する鍼灸師に役割
11	現代社会における鍼灸師の役割	Q O L の向上と鍼灸師の役割
12	現代社会における鍼灸師の役割	Q O L の向上と鍼灸師の役割
13	施術所の経営展開	施術所開設に必要な法律知識
14	施術所の経営展開	経営各論
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	期末試験の解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	はきの適応の判断		
必修選択	必修	(学則表記)	はきの適応の判断		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸の適応不適応について学び、臨床の現場で鑑別法を実施できるだけの知識と技術を養う。		
到達目標	鍼灸の適応不適応について説明できる。 臨床における鑑別ができる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、病理学概論、解剖学、生理学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	富永 敦	実務経験	○
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	肩痛の鑑別	肩痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
2	頸部痛の鑑別	頸部痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
3	腰痛の鑑別	腰痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
4	股関節痛の鑑別	股関節痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
5	膝痛の鑑別	膝痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
6	しびれの鑑別	しびれの鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。

7	腹痛の鑑別	腹痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
8	胸痛の鑑別	胸痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
9	慢性痛と鍼灸	慢性痛治療における鍼灸治療の意義について学ぶ。
10	癌と鍼灸	癌治療における鍼灸治療の意義について学ぶ。
11	鍼灸治療とEBM	EBMと鍼灸治療のEBMについて学ぶ。
12	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
13	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
14	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
15	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
16	総括	前期授業のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント			出版社	医道の日本社

科目の基礎情報②

授業のねらい	衛生学・関係法規・経絡経穴概論の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。		
到達目標	施術に必要な経穴を配穴できるようになる。 また、基礎的な医学知識を説明することが出来る。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師・きゅう師		
関連科目	衛生学・公衆衛生学・経絡経穴概論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	麻生 寿樹	実務経験	○
実務内容	学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	経脈・経穴の復習	督脈
2	経脈・経穴の復習	督脈
3	経脈・経穴の復習	任脈
4	経脈・経穴の復習	任脈
5	経脈・経穴の復習	手の太陰肺経
6	経脈・経穴の復習	手の太陰肺経、手の陽明大腸経

7	経脈・経穴の復習	手の陽明大腸経
8	経脈・経穴の復習	手の陽明大腸経、足の陽明胃経
9	経脈・経穴の復習	足の陽明胃経
10	経脈・経穴の復習	足の陽明胃経
11	経脈・経穴の復習	足の陽明胃経、足の太陰脾経
12	経脈・経穴の復習	足の太陰脾経、前期のまとめ
13	経脈・経穴の復習	手の少陰心経
14	経脈・経穴の復習	手の少陰心経、手の太陽小腸経
15	経脈・経穴の復習	手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経
16	経脈・経穴の復習	足の太陽膀胱経
17	経脈・経穴の復習	足の太陽膀胱経
18	経脈・経穴の復習	足の太陽膀胱経
19	経脈・経穴の復習	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経
20	経脈・経穴の復習	足の少陰腎経
21	経脈・経穴の復習	足の少陰腎経、手の厥陰心包経
22	経脈・経穴の復習	手の厥陰心包経
23	経脈・経穴の復習	手の少陽三焦経
24	経脈・経穴の復習	手の少陽三焦経
25	経脈・経穴の復習	足の少陽胆経
26	経脈・経穴の復習	足の少陽胆経
27	経脈・経穴の復習	足の少陽胆経、足の厥陰肝経
28	環境と健康の復習	環境とは、日常生活環境、環境問題
29	産業保健の復習	産業保健の意義、労働衛生行政、労働環境と健康
30	産業保健の復習	労働災害とその対策、業務上疾病とその対策

31	精神保健―精神の健康と精神障害の復習	精神保健の意義、精神の健康、精神障害の現状と分類
32	母子保健の復習	母子保健の意義、母体の健康、乳幼児の健康母体、保護と家族計画、少子化問題と子育て支援

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学概論・東洋医学臨床論の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。		
到達目標	施術に必要な病態を把握できるようになる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師・きゅう師		
関連科目	生理学・はりきゅう理論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	古川 茂	実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
2	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
3	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
4	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
5	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
6	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング

7	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング
8	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
9	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
10	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
11	診断論の復習	四診の復習
12	診断論の復習	四診の復習
13	診断論の復習	四診の復習
14	診断論の復習	証の立て方の復習
15	診断論の復習	証の立て方の復習
16	診断論の復習	証の立て方の復習
17	診断論の復習	証の立て方の復習
18	診断論の復習	証の立て方の復習
19	治療論の復習	総論および原則復習
20	治療論の復習	総論および原則復習
21	治療論の復習	治療法の復習
22	治療論の復習	治療法の復習
23	治療論の復習	治療法の復習
24	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
25	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
26	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
27	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
28	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
29	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
30	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。

31	弁証トレーニング	各弁証をまとめ、患者の症状をシミュレーションしながら弁証トレーニングを行う。
32	期末試験の解答と解説	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	生理学の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。また、鍼灸医学の特徴を把握し、他の医療従事者との連携できるようにする。		
到達目標	正常な人体の構造と生理機能を関連づけて説明できる。 鍼灸医学の特徴を把握し説明できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師・きゅう師		
関連科目	生理学・はりきゅう理論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	古川 茂	実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	鍼の基礎知識	鍼と鍼管、古代九鍼
2	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、刺鍼の術式
3	特殊鍼法	小児鍼、皮内鍼、円皮鍼灸頭鍼、低周波鍼通電療法
4	灸の基礎知識	灸の材料、線香
5	灸術の種類	有痕灸、無痕灸
6	鍼灸の臨床応用	刺激量、感受性鍼灸療法の適応症鍼灸療法の禁忌

7	リスク管理	リスク管理の基本鍼療法の過誤と副作用灸療法の過誤と副作用
8	リスク管理	感染症対策、痛み感覚の受容と伝導
9	鍼灸治効の基礎	温度感覚の受容と伝導、触圧感覚の受容と伝達
10	鍼灸治効の基礎	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝達、鍼灸刺激と反射
11	鍼灸治効の基礎	鍼鎮痛、刺激と反応
12	鍼灸療法の一般治効理論	自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響、生体防御機能に及ぼす鍼灸刺激の影響、鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用
13	関連学説	サイバネティックスの作用ホメオスターシス,汎適応症候群の学説（ストレス学説）
14	関連学説	過剰刺激症候群の学説（レイリー現象）圧発汗反射の学説
15	教科書第1章の復習・問題演習	生理学の基礎の復習
16	教科書第2章の復習・問題演習	循環の復習
17	教科書第3章の復習・問題演習	呼吸の復習
18	教科書第4章の復習・問題演習	消化と吸収の復習
19	教科書第5章の復習・問題演習	代謝の復習
20	教科書第6章の復習・問題演習	体温の復習
21	教科書第7章の復習・問題演習	排泄の復習
22	教科書第8章の復習・問題演習	内分泌系の復習
23	教科書第9章の復習・問題演習	生殖・成長と老化の復習
24	教科書第10章の復習・問題演習	神経の復習
25	教科書第11・12章の復習・問題演習	筋、運動の復習
26	教科書第13章の復習・問題演習	感覚の復習
27	教科書第14章の復習・問題演習	生体の防御機構の復習
28	教科書第15章の復習・問題演習	身体活動の協調の復習
29	現代の医療制度	医療保険のしくみ
30	現代の医療制度	公的医療負担、介護サービス行政

31	医療倫理	医療倫理、施術者としての倫理
32	総括	授業まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅳ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学概論や経絡経穴概論などの知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。		
到達目標	施術に必要な経穴を配穴できるようになる。 臓腑弁証を説明できるようになる。 四診法を説明できるようになる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	東洋医学臨床論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	西川 隆一	実務経験	○
実務内容	自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴の復習
2	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴の復習
3	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴の復習
4	奇穴	単一奇穴、複合奇穴などの部位と取穴の復習
5	奇経八脈	奇経八脈の流注、所属穴、主治の復習
6	奇経八脈	奇経八脈の流注、所属穴、主治の復習

7	関連学説	経絡に関する学説の復習
8	関連学説	経絡に関する学説の復習
9	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を復習
10	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を復習
11	上肢の経穴の部位・取穴の確認	上肢六経の部位・取穴を復習
12	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を復習
13	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を復習
14	下肢の経穴の部位・取穴の確認	下肢六経の部位・取穴を復習
15	体幹の経穴の部位・取穴の確認	胸部、腹部、背部、腰部の部位・取穴を復習
16	体幹の経穴の部位・取穴の確認	胸部、腹部、背部、腰部の部位・取穴を復習
17	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頭痛の復習
18	主要症候に対する鍼灸療法の復習	眼精疲労の復習
19	主要症候に対する鍼灸療法の復習	めまいの復習
20	主要症候に対する鍼灸療法の復習	脱毛症の復習
21	主要症候に対する鍼灸療法の復習	顔面痛の復習
22	主要症候に対する鍼灸療法の復習	歯痛、眼精疲労の復習
23	主要症候に対する鍼灸療法の復習	鼻閉・鼻汁の復習
24	主要症候に対する鍼灸療法の復習	耳鳴り、難聴、咳嗽の復習
25	主要症候に対する鍼灸療法の復習	咳嗽、喘息の復習
26	主要症候に対する鍼灸療法の復習	腹痛、悪心と嘔吐の復習
27	主要症候に対する鍼灸療法の復習	便秘と下痢、月経異常の復習
28	主要症候に対する鍼灸療法の復習	排尿障害の復習
29	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頸肩腕痛、肩関節痛の復習
30	主要症候に対する鍼灸療法の復習	運動麻痺、高血圧症の復習

31	主要症候に対する鍼灸療法の復習	食欲不振、肥満の復習
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅴ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	解剖学・東洋医学臨床論の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。		
到達目標	正常な人体の構造と生理機能を関連づけて説明できる。 各種症状に対して治療計画を立案することが出来る。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	解剖学・東洋医学臨床論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山賀 真知子	実務経験	○
実務内容	自身の鍼灸院と学校付属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	循環器系	血管系
2	循環器系	心臓
3	循環器系	動脈系・静脈系
4	循環器系	胎児循環・リンパ系
5	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔・咽頭・喉頭
6	呼吸器系	咽頭・喉頭

7	呼吸器系	気管と気管支・肺
8	消化器系	消化管の基本構造
9	消化器系	口腔・咽頭
10	消化器系	食道・胃
11	消化器系	小腸・大腸
12	消化器系	肝臓・胆嚢
13	消化器系	膵臓・腹膜
14	泌尿器系	腎臓・尿路
15	前期範囲まとめ	前期範囲まとめ
16	前期範囲まとめ	前期範囲まとめ
17	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頭痛の復習
18	主要症候に対する鍼灸療法の復習	眼精疲労の復習
19	主要症候に対する鍼灸療法の復習	めまいの復習
20	主要症候に対する鍼灸療法の復習	脱毛症の復習
21	主要症候に対する鍼灸療法の復習	顔面痛の復習
22	主要症候に対する鍼灸療法の復習	歯痛、眼精疲労の復習
23	主要症候に対する鍼灸療法の復習	鼻閉・鼻汁の復習
24	主要症候に対する鍼灸療法の復習	耳鳴り、難聴、咳嗽の復習
25	主要症候に対する鍼灸療法の復習	咳嗽、喘息の復習
26	主要症候に対する鍼灸療法の復習	腹痛、悪心と嘔吐の復習
27	主要症候に対する鍼灸療法の復習	便秘と下痢、月経異常の復習
28	主要症候に対する鍼灸療法の復習	排尿障害の復習
29	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頸肩腕痛、肩関節痛の復習
30	主要症候に対する鍼灸療法の復習	運動麻痺、高血圧症の復習

31	主要症候に対する鍼灸療法の復習	食欲不振、肥満の復習
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅵ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅵ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	3	48
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病に対する理解を深め、疾病からの回復過程についての理解を深める。また、他の医療従事者との連携を想定し、医療や福祉の関係法規・倫理も併せて学習する。		
到達目標	疾患の病理学的な変化について説明できる。 医療従事者の業務を知り、医療チームの一員として活躍できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	病理学概論・社会保障制度及び職業倫理・関係法規		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○
実務内容	自身の治療院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病因論の復習	遺伝・免疫などの内因、感染症などの外因
2	循環障害の復習	充血、うっ血、貧血・虚血、出血
3	循環障害の復習	血栓症、塞栓症、梗塞
4	循環障害の復習	水腫・浮腫・脱水症、ショック
5	退行性病変の復習	萎縮、変性
6	退行性病変の復習	壊死と死

7	進行性病変の復習	肥大と増殖
8	進行性病変の復習	再生、化生、移植、創傷治癒・組織内異物の処理
9	炎症の復習	炎症の一般、分類
10	腫瘍の復習	腫瘍の一般
11	腫瘍の復習	良性腫瘍、悪性腫瘍
12	免疫異常・アレルギーの復習	液性免疫と細胞性免疫、アレルギー、免疫不全、自己免疫異常
13	先天性異常の復習	先天性異常総論、遺伝性疾患、染色体異常
14	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
15	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
16	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
17	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
18	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
19	職業倫理の復習	医療従事者の倫理の復習
20	医学史の復習	医療概論、医学史の方法の可能性
21	西洋の医学と医療の歴史の復習	古代の医学、中世の医学
22	西洋の医学と医療の歴史の復習	ルネサンスの医学、17世紀の医学-近代医学の萌芽
23	西洋の医学と医療の歴史の復習	18世紀の医学、19世紀以降の医学
24	東洋の医学と医療の歴史の復習	古代インドの医学
25	東洋の医学と医療の歴史の復習	中国の医学
26	日本の医学と医療の歴史の復習	古代以前、古代の医学
27	日本の医学と医療の歴史の復習	中世の医学、近世の医学
28	日本の医学と医療の歴史の復習	近代の医学
29	現代医療の課題の復習	西欧近代医学
30	現代医療の課題の復習	東洋医学

31	全範囲	問題演習①
32	全範囲	問題演習②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅶ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅶ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	臨床医学各論の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。		
到達目標	施術に必要な病態を把握できるようになる。 また、基礎的な医学知識を説明することが出来る。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師・きゅう師		
関連科目	臨床医学各論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	富永 敦	実務経験	○
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	整形外科疾患	関節疾患
2	整形外科疾患	骨代謝性疾患・骨腫瘍
3	整形外科疾患	筋・腱疾患
4	整形外科疾患	形態異常・脊柱疾患
5	整形外科疾患	脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患
6	感染症	感染症総論、細菌感染症

7	感染症	細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症
8	消化管疾患	口腔疾患、食道疾患
9	消化管疾患	胃・十二指腸疾患
10	消化管疾患	胃・十二指腸疾患
11	消化管疾患	腸疾患、腹膜疾患
12	肝・胆・膵疾患	肝臓疾患
13	肝・胆・膵疾患	胆嚢疾患
14	肝・胆・膵疾患	膵臓疾患
15	総まとめ	全範囲のまとめを行う
16	総まとめ	テストの振り返りと全範囲のまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅷ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅷ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学の弁証に対する理解を深め、臨床での鑑別能力を高める		
到達目標	東洋医学の弁証について説明できる。 弁証を鑑別できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師・きゅう師		
関連科目	東洋医学概論、東洋医学臨床論		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山賀 真知子	実務経験	○
実務内容	学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得、関連用語の理解、診察法の種類、診察の順序、記録の目的と内容
2	診察の方法	医療面接、視診、触診、打診、聴診、測定法、神経系の診察
3	生命徴候の診察	体温、脈拍、血圧、呼吸
4	全身の診察	顔貌・顔色、精神状態、身体計測、体形・体格、栄養状態、姿勢と体位
5	全身の診察	歩行、皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態リンパ節、その他の一般的状態
6	局所の診察	頭部、顔面、目、鼻

7	局所の診察	耳、口腔、頸部、胸部、乳房、肺、胸膜
8	局所の診察	心臓、腹部、背部、四肢
9	治療総論、治療各論	現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方、健康医学としての鍼灸療法など
10	主要症候に対する鍼灸療法	頭痛など
11	主要症候に対する鍼灸療法	歯痛、眼精疲労など
12	主要症候に対する鍼灸療法	眼精疲労、鼻閉・鼻汁など
13	主要症候に対する鍼灸療法	便秘と下痢など
14	主要症候に対する鍼灸療法	頸肩腕痛、肩関節痛など
15	主要症候に対する鍼灸療法	低血圧、食欲不振など
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	臨床はりきゅう実技		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床はりきゅう実技		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	5	160
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	疾患ごとの治療方針、治療方法を習得する。				
到達目標	各領域における鍼灸治療を学び、鑑別診断や治療を構築することができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	基礎はりきゅう実技・応用はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村田 清貴、片倉 弘隆			実務経験	○
実務内容	村田清貴：自身の鍼灸院にて臨床に従事。 片倉弘隆：鍼灸整骨院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	臨床実技の進め方、施術者に求められる「臨床能力」
2	医療面接総論	医療面接の基本、客観的臨床能力試験（OSCE）について
3	病歴聴取総論	聴取すべき項目、聴き方
4	主要症候に対する鍼灸治療	腰痛の医療面接と診察
5	主要症候に対する鍼灸治療	腰痛のロールプレイング実習
6	主要症候に対する鍼灸治療	下肢痛を伴う腰痛の医療面接と診察

7	主要症候に対する鍼灸治療	下肢を伴う腰痛のロールプレイング実習
8	主要症候に対する鍼灸治療	膝痛の医療面接と診察
9	主要症候に対する鍼灸治療	膝痛のロールプレイング実習
10	主要症候に対する鍼灸治療	頸腕症候群の医療面接と診察
11	主要症候に対する鍼灸治療	頸腕症候群のロールプレイング実習
12	主要症候に対する鍼灸治療	肩関節周囲炎の医療面接と診察
13	主要症候に対する鍼灸治療	肩関節周囲炎のロールプレイング実習
14	主要症候に対する鍼灸治療	上肢痛の医療面接と診察
15	主要症候に対する鍼灸治療	上肢痛のロールプレイング実習
16	主要症候に対する鍼灸治療	頭痛の医療面接と診察
17	主要症候に対する鍼灸治療	頭痛のロールプレイング実習
18	主要症候に対する鍼灸治療	眼精疲労の医療面接と診察
19	主要症候に対する鍼灸治療	眼精疲労のロールプレイング実習
20	主要症候に対する鍼灸治療	眩暈の医療面接と診察
21	主要症候に対する鍼灸治療	眩暈のロールプレイング実習
22	主要症候に対する鍼灸治療	耳鳴の医療面接と診察
23	主要症候に対する鍼灸治療	耳鳴のロールプレイング実習
24	主要症候に対する鍼灸治療	顔面痛の医療面接と診察
25	主要症候に対する鍼灸治療	顔面神経麻痺の医療面接と診察
26	主要症候に対する鍼灸治療	美容鍼の医療面接と診察
27	主要症候に対する鍼灸治療	スポーツ医学と鍼灸
28	主要症候に対する鍼灸治療	婦人科疾患の医療面接と診察
29	主要症候に対する鍼灸治療	老年医学と鍼灸
30	主要症候に対する鍼灸治療	小児疾患の鍼灸

31	主要症候に対する鍼灸治療	美容鍼
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	90
使用教材	教員作成プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸治療に関する総合的なシミュレーションを行い、臨床能力を高める。				
到達目標	医療面接ができる。 徒手検査ができる。 病態把握ができる。 治療計画を考えられる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	西川 隆一、加藤 竜司、松岡 晋也			実務経験	○
実務内容	西川隆一：自身の治療院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。加藤竜司：自身の治療院にて臨床に従事。 松岡晋也：自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				